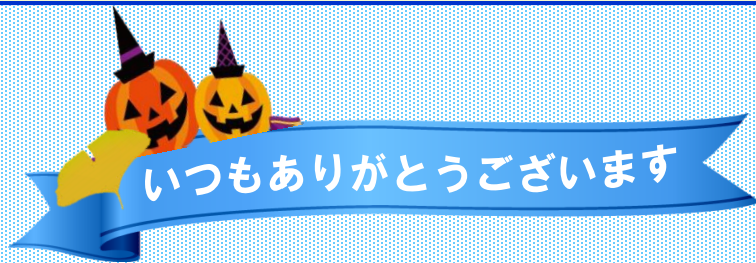


地 域 連 携 だ よ り

彦根市立病院
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



地域に支えられ 医療の絆、つよく

糖尿病代謝内科主任部長 黒江 彰



私は京都大学教授のご高配で2009年1月に彦根市立病院へ赴任しました。当科の医師のスタッフは私以外にスーパーバイザーの矢野医師、菱澤医師で、他に京都大学からの派遣医師も含めて診療をしています。糖尿病の治療は生涯続き生活習慣の改善も必要なので、医師以外の仕事以上にメディカルスタッフの支えが重要となります。認定看護師（糖尿病）をはじめ多くのスタッフが糖尿病療養士の資格をとり、患者さんの生活習慣を見極め、的確な指導に努めています。

糖尿病代謝内科は、日本糖尿病学会の認定施設として登録され、京都大学の関連施設として連携を取りながら最先端の医療を目指し、学会および大学から発信された情報をこの地に伝える役割を担っています。私たちの仕事はそれらを研修医に伝えながら糖尿病学の基礎を学んでいただくことと、近隣の先生方に正しい治療方針をお伝えすることとなります。

糖尿病は全国で1000万人、予備群を含めると2000万人に達するとされています。その膨大な数の患者さんの診療は基幹病院だけでは対応できず、病態の評価、それに応じた治療方法が確立するとその後はかかりつけ医の協力が不可欠になります。

幸い近隣の熱心な先生方からの惜しみない協力によって、今日まで病診連携を構築することができています。糖尿病、内分泌疾患の患者さんをご紹介いただき、診断初期の教育入院、悪化した患者への対応、合併症の評価、インスリンやGLP-1受容体作動薬などの注射剤の導入などを当院で行った後は、かかりつけ医の先生にその後の診療をお願いしています。これからも先生方に助けられながら少しでもこの地に貢献できれば幸いです。

週末の短期入院でしっかり!!

～注射製剤の使用手技を身に付ける～

10
2021

◆ 糖尿病3日間入院始めました

かかりつけ医から患者さんをご紹介いただく時の依頼内容は、診断初期の教育入院、治療中の血糖コントロール悪化への対応、インスリンを含む注射製剤の導入が多いのですが、患者さんが多忙などの理由で長期間入院できない場合があります…

7月より当院では注射製剤や血糖測定の基本的な手技を3日間の入院で獲得し、血糖改善後に地域へお返しさせていただき新プランを開始しました。

- 金曜日～日曜日の**3日間入院**
- **インスリンやGLP-1受容体作動薬の選定**
- **インスリン自己注射・血糖自己測定の手技獲得**

※看護師の見守りのもと自分で手技が獲得できるように指導させていただきます

- **栄養指導: 自宅での食習慣を確認します**
- **フットケア: 足の観察をします**

入院スケジュール

1日目(金)
13:30入院

- ・オリエンテーション
- ・持参薬の確認
- ・栄養指導、薬剤指導
- ・フットチェック
- ・夕方から血糖測定
注射製剤実施の見学

2日目(土)

- ・朝昼夕眠前の血糖測定
- ・昼に自己注射指導

3日目(日)

- ・朝に血糖測定の実践
- ・注射の手技を最終確認

11:00退院

◆ 入院から外来へ継続したケア 4ポイント

糖尿病教育の利点は、糖尿病の理解、治療を短期間で集中的に行えることです。仕事の都合で長期間の入院ができない方は、ぜひ当院外来にてご相談ください。

薬剤師

薬の選定・確認

- ・インスリン・GLP-1受容体作動薬の説明

※GLP-1受容体作動薬は膵臓に働きかけインスリン分泌を促します

- ・持参薬の確認(ポリファーマシー)



看護師

自己注射指導

- ・デモ器を使用し、一連操作の見学
- ・看護師見守りの中で自己注射の実践
- ・手技が問題なければ一人で実践
- ※患者さんのペースに合わせて進めていきます

看護師

フットケア

- ・入院時の足の観察
- ・まきづめ・白癬の確認
- ・保清・観察の指導



早期から介入し外来でフォローアップ 潰瘍や壊疽 足病変予防の強化!

管理栄養士

食事療法

- ・入院前の食習慣の聞き取り
- ・栄養指導
- ・次回外来再診日に退院後の食生活を
確認・指導



見逃さない
合併症予防
進行防止

患者さんの入院の負担軽減する中でも、安全で確実な指導をしていくことで、その後の血糖コントロールの改善、合併症の予防につなげることができたらと願っています。入院から外来まで糖尿病チームがサポートさせていただきます。

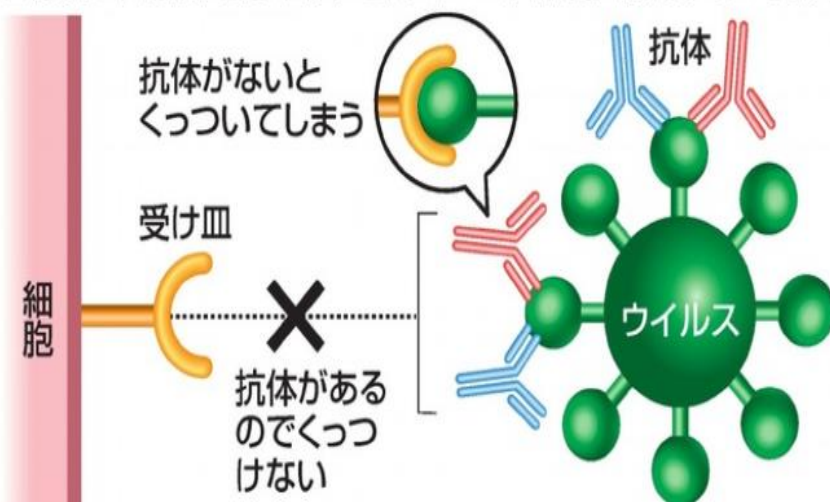
抗体カクテル（ロナプリーブ） 外来投与開始

抗体カクテル療法とは

2種類のモノクローナル抗体のカクテルであり、COVID-19の原因ウイルスであるSARS-CoV-2による感染防止、重症化防止を目的として創製されました。2種類の強力なウイルス中和抗体であるカシリビマブおよびイムデビマブは、ウイルスのスパイクタンパク質の受容体結合部位に非競合的に結合することで、SARS-CoV-2に対して中和活性を示し、ヒトの集団で発生したスパイクタンパク質に変異を持つウイルス株に対しても効果を示すことが期待されています。

カクテル療法イメージ

2種類の「抗体」を組み合わせ、ウイルスが細胞に感染するのを防ぐ



国内で使われている新型コロナウイルス感染症の治療薬

薬の名前	商品名	対象患者	使い方
レムデシビル	ベクルリー	中等症～重症	点滴
デキサメタゾン	デカドロン		のみ薬や点滴
バリシチニブ	オルミエント	軽症～中等症	のみ薬 (レムデシビルと併用)
カシリビマブ イムデビマブ	ロナプリーブ		点滴

抗体カクテル療法のイメージ/国内で使われている新型コロナウイルス感染症の治療薬

ロナプリーブ投与対象患者

ホテル療養患者のみ

※投与基準を満たす事が前提

ロナプリーブ投与基準

- ①発症後7日以内
- ②発熱等の有症状
- ③重症化リスクのある方

ロナプリーブ副作用

アナフィラキシーショック
インフュージョンリアクション

※ロナプリーブを含むモノクローナル抗体製剤を点滴したときに起こる体の反応で過敏症やアレルギーのような症状

ロナプリーブ投与後の対応

投与後1時間の観察後に療養施設に戻る

COVID-19 検査に関して

本院では保健所の指示により、有熱症状のある患者さんに対して抗原検査を実施させていただいています。COVID-19 鑑別のみ検査は実施していません。

今後とも何卒ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

New Face! 新任医師紹介

このたび新しく彦根市立病院で働くことになりました。皆さまよろしくお願いたします。



大学卒業年 : 2016年
専門分野 : 家庭医療
所属学会 : 内科学会・プライマリーケア連合学会
出身地 : 彦根市
趣味 : ゴルフ
抱負 : 地元彦根の医療に貢献する

在宅診療科
兒玉 征也



大学卒業年 : 2017年
専門分野 : 整形外科
所属学会 : 日本整形外科学会・日本人工関節学会
中部整形外科・災害外科学会
出身地 : 愛知県
趣味 : ロードバイク・キャンプ・筋トレ
自己PR : 体力には自信があります
抱負 : 誠心誠意治療にあたらせていただきます
座右の銘 : 思い邪無し

整形外科
高木 魁人



大学卒業年 : 2018年
専門分野 : 呼吸器内科
所属学会 : 日本内科学会・呼吸器内科学会
感染症学会・気管支鏡学会
日本アレルギー学会
出身地 : 京都府
趣味 : ゲーム
抱負 : 彦根市に貢献できるように全力で頑張ります

呼吸器内科
齊藤 漸太郎